

【1.体制】

2024年1月より経理企画室を新設し、企画総務室の企画・広報業務を経営企画室へ移管したことで、総務室へ名称を変更した。事務員7名、技能員1名、清掃スタッフ5名、レストランスタッフ3名、売店スタッフ4名（派遣スタッフ1名含む）の20名体制で臨んだ。2024年10月より、経験者採用として1名新規採用を行い、経理業務を中心に業務習得を行っている。

【2.取組内容と実績】

1. 2023年度事業報告

2023年度は、スローガン「これからも地域を守る病院として、環境の変化に柔軟に対応する」、キーワード「済（Sai）スタート」のもと、活動を行った。

（1）病院機能評価の認定

今回で4回目となる病院機能評価受審は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う院内クラスターの影響で2回受審延期を経て、5月24日-25日に受審となった。病院機能評価受審プロジェクトを中心に1年以上前より準備を行い、受審前には院内スタッフによるサーベイも実施し万全な体制で臨んだ。受審では様々な指摘があったものの、改善事項の指摘はなく、更新の認定を受けることができた。

（2）うきうき病院体験の開催

新型コロナウイルスの影響で、3年延期していた健康フェスタを再開するため、地元企業の㈱シークルーズが開催しているイベントに参加し、4年ぶりの健康フェスタとして「済生会みすみ病院うきうき病院体験」を開催した。当日は、4ブースに分かれ、①握力測定、②手洗いチェック、③高齢者・車椅子体験、④ユニフォーム体験を実施した。ブースには100名を超える来場者が足を運び大盛況となった。

（3）クラウドファンディングへの取り組み

「病院の取組み発信・広報」、「組織の一体感をつくる」、「新たな資金調達方法の確保」を目的に7月にプロジェクトを立ち上げ、11月よりクラウドファンディングを開始した。住み慣れた地域で生活をするために、住民の「あし」と「元気」を守りたい！をテーマとし、運転シミュレーター、電動車いす、電動シニアカー導入のために、約3ヶ月広報活動に取り組んだ。第1目標金額を800万円とし、取り組んだ結果、個人だけでなく施設や団体からの支援があり、最終的には1,478万円の寄付が集まった。

（4）天草パールラインマラソン大会の救護ボランティア

第52回天草パールラインマラソン大会が3月に開催され、

今年も熊本病院と共同で、救護ボランティア（救護ランナー7名、AED救護4名、事務局3名）として14名が参加した。当日は、ランナー1名の救急搬送者が出たが、救護者の早期対応で大事には至らず、無事救急隊へ引き継ぐことができた。

（5）経営管理会議の開催

済生会学会の前日に開催される済生会病院長主催の経営管理会議は、今年は当院が担当病院となり、1月に熊本市内のホテルで開催を行った。「地域のために歩んできた20年の奇跡とこれからの生き残りをかけて」のテーマのもと、当院の紹介VTRから始まり、当院の20年間の取り組みとこれからの方向性について院長、事務長、看護部長がそれぞれプレゼンし、その後会場参加者とのディスカッションを行った。当院の様々な取り組みはとても好評で、無事に大役を果たす結果となった。

（6）院長交代プロジェクト

庄野院長から吉岡院長への院長交代に際し、プロジェクトを発足し、円滑な移行に努めた。2024年3月29日に、医師全員及び主任以上の役職者を対象に、庄野院長および藤本副院長の退任式を総務室主催で行った。

（7）ハラスメント相談体制の強化

ハラスメントの相談体制の強化として、社会保険労務士事務所と契約し、外部相談窓口を設置した。院内スタッフを介さず相談できる環境の整備を行った。

（8）事務部の人材育成スキームを作成

今まで事務員の正職員を採用することが少なかったため、人材育成スキームの整備が出来ていなかったが、10月に2名採用したことを機に、育成スキームを作成した。

2. 2024年度スローガンとキーワード

《スローガン》 一致団結して、地域に根付いた病院であり続ける

《キーワード》 再チャレンジ

【3.今後の課題】

- ・不足している職種の充足に向けて、積極的なリクルート活動や採用方法の見直しを支部と一緒に検討を行う。
- ・働きやすい職場環境の整備のため、人事制度の見直しや環境整備を実施する。